

## 2 創意工夫を凝らした国体

### (1) 既存施設の有効活用

- ア 競技施設は、可能な限り既存施設を活用することとし、施設の整備や改修を行う場合は、真に必要な改修範囲にとどめ、会場地市町等の負担をできる限り抑えけるとともに、競技施設基準やユニバーサルデザインに配慮した施設の整備・運用に努めます。
- イ 競技用具の整備にあたっては、県及び会場地市町等が現有するものをできる限り利活用することとし、不足するものについては、他市町、他府県からの借入や、共同購入を検討するなど、合理的な整備を心がけていきます。

### (2) 大会運営の充実

- ア 関係機関・団体、企業、行政等が十分に連携して、互いの強みや利点を活かし効果的な大会運営に努めます。
- イ 宿泊施設の確保や選手等の円滑な輸送など、大会運営の全般を通じてICT<sup>(※1)</sup>を利活用するなど情報サービスの推進に努めます。
- ウ 障がい者、高齢者など移動に困難を伴う方に、おもいやり駐車場の確保や県内のバリアフリー情報を発信するなど、受け入れ側のおもてなしを向上することで、全ての人にやさしい大会運営に努めます。
- エ 公共交通機関の利用促進、再生・再利用製品の利用、ごみの減量化や分別など、リサイクル、省資源、省エネルギーに取り組み、環境への負荷が少ない国体の運営に努めます。



公共交通機関の利用促進（H27 和歌山）

### (3) スポーツイヤーの体験等を活用した運営

平成30年には全国高等学校総合体育大会が、また、平成32年の全国中学校体育大会がそれぞれ三重県を中心に開催されます。

さらに、同年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて事前キャンプ地の誘致を進めているところです。

このように、数年にわたり開催されるさまざまなスポーツイベントの運営ノウハウや、多様なネットワークを生かして、平成33年の大会がこれらの集大成となるよう、また大会後も、これら運営手法等の蓄積が生かされていくよう、取組を進めます。

(※1) ICT

Information and Communication Technology の略。情報・通信に関する技術の総称。

### (4) 安全安心な大会運営

国体の開催期間中、多数の人びとが三重県を訪れることから、大規模災害や突発事故をはじめ、大会参加者の食中毒等の事態に至るさまざまなリスクを想定し、危機管理体制を構築するなど、各種計画を策定することで安全で安心な大会運営に努めます。